

# 心豊かな世代が育つ

## 童話の里づくり 440

—シリーズ— あなたの人權・わたしの人權

### 「玖珠町人權公開講座に参加して」

人權公開講座受講生

穴井 沙世

私は、今回PTA役員として、全六回の人權公開講座に参加する機会をいただきました。

参加する前は、正直前向きな気持ちではなく、仕方なくという気持ちの方が大きかったように思います。

「人權」と一言でいっても「部落差別」「子どもの人權」「障害のある人の人權」「女性の人權」様々な視点からの人權がある事を改めて知りました。なかでも部落差別や障がいのある人の人權といわれても、ピンとこず、どこか他人事で自分には関係ない話だと思っていたのも事実です。

しかし、講師の方々のお話を聞き、

440

部落差別は今なお存在する事、また、自分の住んでいる町にも差別を受けている地区があった事に驚きました。

「差別をなくそう」とは、誰しもが思っている事だと思います。

しかし、本当に差別をなくす為には、まず学習し、正しい知識を身につけなければ、何も始まらないのだと痛感しました。

第二回の「子どもの人權」の講座では、私も三人の子どもの親として、考えさせられる事が沢山ありました。日々、「何故こうしないの？できないの？」と叱ってばかりの私でしたが、特に気にもとめず過ぎてきました。

講師の池部先生は、その子の立場になって考えれば、「困った子は困っている子である」と言われました。

疾風怒濤の時代を生きる子どもたち

ちの為に、私たち親は、「背負いきれないほどの荷をひとりで背負わない」「子どもを信じる」「効力を育てる」「効果のない叱り方はしない」「待つ」という事が大切だとお話してくださいました。

この言葉を聞き、子どもを変えようとするのではなく、まず親である自分自身が変わらなければいけないのだとハッとする思いでした。

なかでも「待つ」という事は、自分に一番足りていない事だと感じました。どんな場面においても、子どもを信じて待つという事は、とても難しいけれど、すごく大切だと思いました。

今回の人權公開講座に参加して、子育てをする中で、自分が思っていた「普通」とは、何だったんだろう？と考えさせられました。

こつするのが当たり前で、これができるで当たり前と、自分の中で決めていく事が多々あると気づかされました。

また、どんな場面においても、こういった固定観念が知らない間に差

別にも繋がってしまうのだと思います。

約半年間、講師の方々のお話を聞き、自分自身を見つめ直す良いきっかけをいただいたと思っています。

人權とは、「まず自分を大切に」「その言葉を胸に留めながら、日々、家族と周囲の人たちと接していかれたらと思います。

この人權作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを「二〇〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して(匿名も可)、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人權・わたしの人權」までお届けください。

